

立教南無  
850  
年



第189号

令和4年  
2月25日発行  
春彼岸号

# 西光



靈閑だより ～トリのハナシ～  
坊主のつぶやき  
お経は願い 門前掲示板  
西光寺のご詠歌  
日常に溶け込む仏教語  
「相好」 ～浄土宗西山勤行式から～  
お知らせ



浄土宗西山禅林寺派  
雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101 姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351 Fax 079-254-4142

# 霊閑だより

## トリのハナシ

気になって帰ってから調べてみると、どちらも水辺の鳥で魚を食べる点で共通しているが、コウノトリは移動しながら長い嘴くちばしを使って餌を取るのに対し、アオサギはじつと待ち伏せして餌を狙うという。コウノトリから逃げた魚をアオサギがそばで待ち構えていたようです。なるほどそういう構図でしたか。

先日、鹿島神社近くの公園に子供と遊びに行くと、干乾びた池のわずかに残った水辺に、優雅に佇たたずむ鳥が三羽。「あの赤い足はもしや：以前このあたりの池に飛んでくると聞いたな：」と思っているところへ、隣で同じく鳥を眺めていた出で立ちからして明らかに詳しくな方が「あれコウノトリやで」と親切に教えてくれました。思いもかけず特別天然記念物に遭遇。それも三羽。まもなく二羽が飛んでいってしまい、コウノトリが一羽、そしてすぐその傍にアオサギが一羽残りしました。コウノトリは餌を探しているのかくちばしを水につけながら辺りをウロウロ歩いています。しかしアオサギは全く動きません。



急いでスマホのカメラで最大限にズームして写真に残しましたが、全く何を撮ったのか意味不明な写真に…ちなみに右がコウノトリ。

このコウノトリやアオサギのような鳥が、仏の教えを伝える鳥として法事などでお読みする『阿弥陀経』というお経に登場します。この極楽に住む鳥というのは、白鶴、孔雀、鸚鵡、舍利、迦陵頻伽、共命鳥です。孔雀と鸚鵡以外は聞きなれない：鳥も漢字で書くとな数も多く何か威厳があつて神聖な印象を受けますが、どうもとっつきにくいです。クジャクやオウムと書いた途端、動物園に来たようで一気に落ち着きます。

## 極楽に住む鳥のハナシ

### 孔雀と鸚鵡

まずは馴染みのあるものから。孔雀は毒蛇を食べる益鳥えきちようとして古来よりインドでは神聖化され、国鳥にもなっています。孔雀明王くじやくみんおうなんて仏様もいらっしやいます。私達を悩ませる欲や怒りの感情などの毒を食べる〓苦しみや災厄を取り除く有難いお方です。

鸚鵡は人の言葉を真似るあのオウムです。善い行いをする鳥として仏典に出てきます。ですのでオウム真理教のオウムはこの鳥とは関係ありません(本当に関係ないようです)。



子供で遊んでいる母親を見守るのようだと思ってしまいましたが、私もまんまと騙されていたのでしょうか。

## 白鶴と舍利

鶴は白鳥のことで、純白はお浄土の清浄なイメージにぴったりです。雰囲気としてはコウノトリも近いものがあります。ただこの度のコウノトリがいた池は極楽の水辺とは程遠い干乾びた池でしたので、周りの環境が減点ポイントです。

舍利は百舌鳥とか九官鳥とか鷺鷥のこのようなですが、何か別物のような気が…スズメのような小さい鳥として描かれていることが多いようです。いずれにせよオウム同様、人の言葉を真似て理解することができる賢い鳥として登場。

## 共命鳥

そんな鳥聞いたことがありません。それもそのはず、体は鳥、顔は人の顔をした（顔も鳥の場合もあり）想像上の生き物で、体は一つで、頭が二つあります。まるで妖怪です。しかし妖怪ではありません。共命鳥は極楽に生まれる前は仲が悪かったようです。ある時、一方の頭がもう一方の頭を陥れようと、親切を装い毒のある果実を食べさせたのです。すると体が一つの共命鳥は両方とも死ん

でしまいました。命を落とす直前に食べさせた方がはっと気付くのです。私はわがままを言って喧嘩をしてきたが、自分が元気にここまで生きてこられたのもあなたがいたからだ、私の命はあなたの上にあったのだと。こう悟った共命鳥は極楽のお浄土に生まれました。めでたしめでたし。

## 迦陵頻伽

いよいよ最後の迦陵頻伽です。共命鳥同様上半身が人、下半身が鳥の想像上の生き物です。非常に美しい声で鳴くので妙音鳥ともいわれます。

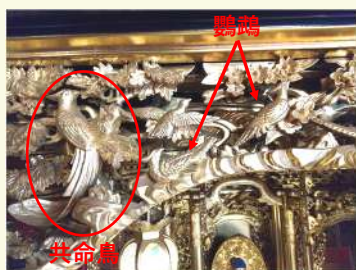
以前、あるお家でお母様の法事を終えて有難うございましたと申し上げたたちょうどその時、庭で鳥が高らかな声でピヨピヨと鳴き始めたのです。あまりのタイミングの良さに皆が同時に思ったのです「あ、お母さん帰ってきた」と。実は法事の最後の法話で、迦陵頻伽など極楽の鳥のお話しや、故人は極楽のお浄土に往かれると仏の道を歩まれ、また私たちのもとへ帰ってこられる、というようなお話をしてきた直後だったのです。

## お経は願い

山鳥のほろほろと啼く声きけば  
父かと思う母かと思う

飛鳥く奈良時代、諸国に多くの寺院、また橋や道をつくった行基の歌です。ちなみに行基は実は私たちにも縁のあるお方で、行基が大塩のお隣の形に塩田を作ったのが日本の製塩の歴史の始まりといわれています。

さて「鳴く」と違って「啼く」は、何らかの思いを込めて動物の声を表現したい場合に使います。この何らかの思いというのがまさに仏の、そして故人の願いそのものです。お経を通じて、こちらからの願いを届ける、そしてあちらからの願いをしっかりと受け取る。お経を読む意義はそれに尽きます。



仏壇の欄間に描かれる極楽の鳥。白鶴、舍利は区別がつかえませんm( )m六鳥以上いるのでダブリがあるかもしれません。迦陵頻伽はいない気がします…

# 坊主のつぶやき

## それぞれの念い

昨夏、恐竜好きの息子を福井の恐竜博物館に連れて行った。私もこの頃は恐竜が好きだった記憶がある。あわよくば恐竜博物館の近くの永平寺にお参りしようと思ったが、迷いながらも今回は恐竜一点集中を決断。寺に生まれた子が寺参りなど新鮮味があるわけもなく…。せめてもの悪あがきとして、永平寺御用達のゴマ豆腐を購入。

先日、2025年に福井県立大学に恐竜学部開設のニュースを目にした。恐竜王国・福井ならではのロマン溢れる学部だ。息子も興味が続けば恐竜を極めてもおもしろい。

帰り道、永平寺町の地酒「白龍」の蔵元に立ち寄った時のこと（坊主が酒の話というのもなんだが…）。仏教的なおいのするラベルの酒を目にした。その名も「念」。「おもい」と読む。コロナ禍を受けて、少しでも早く世界中の人々に笑顔が戻るように、「おもう」と読む漢字の中でも、「念い」という一番強い願い、祈りの気持ちが込められた漢字を選んだとのこと。「おもう」と読む漢字には、思・想・憶・懐・意・惟・念と実に多くの漢字がある。お経にも「念<sup>ねん</sup>じる」「念<sup>おも</sup>う」「念<sup>ねが</sup>う」と度々出てくる。それこそ「念<sup>ねんぶつ</sup>仏」もそうだ。こんな大変な時でも皆、「念い」を持って頑張ってるんだなと勇気もらった。

ちなみに西光寺は山号を雲龍山といい、同じ「龍」がつくことでも勝手に親近感を覚えた。ご<sup>ひいき</sup>巖にさせて頂きたい。



息子お気に入りのタルボサウルス。大事そうに毎日これを横に置いて寝ている。



(左)「念」と書かれた日本酒。チャリティ日本酒として1本につき100円を日本赤十字社に寄付されている。(上)吉田酒造「白龍」のブランドロゴ。カッコいい。



## 義理〇〇は終わりなのか？

義理チョコを廃止にしている会社があるという。何年前か、ゴディバが「日本は、義理チョコをやめよう」と広告をうって話題になった。するとお馴染みブラックサンダーが「一目で義理とわかるチョコ」とすぐさま応戦した。どう転んでも本命になりえないブラックサンダーならではのユーモアでおもしろい。今は義理チョコより日頃頑張っている自分のために買う「ご自愛チョコ」が増えているという。どうも日本は商機があるとなるとなんでもイベント化してしまう悪い癖があり（仏教は商機ゼロなので蚊帳の外である）、季節のイベントに家族の誕生日なども加えると毎月何かしらある。大変大変。

「義理」という言葉で思うのは、香典や葬儀への参列も同じ理屈なのかなと。コロナ禍を経て義理香典、義理参列の時代は過ぎ去ろうとしているのかもしれない。良い悪いの問題ではない。すべては変わっていく。諸行無常ということか。

ちなみに忘れかもしれないが、2月15日はお釈迦様の亡くなられた日（いわゆる<sup>しょうつきめい</sup>祥月命日にち）で、前日の2月14日はお<sup>たいや</sup>逮夜日なのだ。坊主がバレンタインにうつつをぬかしている場合ではないのである。バレンタインに応戦すべく、うちの寺でもお釈迦様の遺徳を<sup>いとく たた</sup>讃える法要をして（涅槃会<sup>ねはんえ</sup>という）、参詣者にチョコを配るしかない…



当寺所有の釈迦涅槃図。本堂の天井から床に届くサイズ。

天下和順

日月清明

風雨以時

災厲不起

国富民安

兵戈無用

崇徳興仁

務修禮讓

『佛説無量寿経』

世の中が平和でおだやかで

太陽も月も清らかで、明るく輝き

時季よく雨が降り、風が吹き

災害や疫病が起こらず

国は豊かで人々は心穏やかに過ごし

兵器を用いることなく

相手を尊重し、互いに思いやりの心を持ち

礼儀正しく、ゆずりあいの心をもてますように

お経は願い(念い)

門前掲示板より

十二月

人生に余生なく

与生あり

一月

人の小過を責めず

人の陰私を発かず

人の旧悪を念わす

『菜根譚』

二月

世の中は心ひとつの

置きどころ

楽も苦となり

苦も楽となる



ひとすじに  
ちかいをたのむ  
あまおぶね  
にしのひかりの  
さすにまかせて

## 印南西国第四番

### 播磨四国第八十番

#### 雲龍山西光寺

##### ご詠歌

一すじに

誓いをたのむ

海女小舟

西の光の

さすにまかせて

##### ご詠歌

ご詠歌は五七五七七の和歌の形  
になっていて、仏を讃えたり、仏  
教の教えが詠まれています。伏鉦  
をたたきながら、節をつけて唱え  
ます。この辺りでも葬儀の後四十  
九日の中陰の間やお盆の時期に皆  
であげる習慣があります。最も成  
立が古いとされる西国三十三か所  
のご詠歌がよく詠まれます。

まさに上の写真の情景がその内容  
です。ご本尊である阿弥陀仏は西方  
極楽浄土という世界にいらっしゃる  
で、その姿から放たれる光であらゆ  
る世界を照らしています。その西の  
方角で光っている様子を西に沈みゆ  
く夕日に重ねています。夕暮れ時、  
辺りが次第に暗闇に包まれていく  
中、西に沈む夕日の輝き、一すじに  
伸びる光がその進むべき道を示して  
くれています。聞き大海原に漂う海  
女の乗る小さな舟は、まさに私たち  
そのものです。阿弥陀仏は仏となる  
前の菩薩の時に「いかなる人も私は  
救うのだ」という誓いをたてられ、  
それが成就したため仏にレベルアッ  
プされました。私たちはその阿弥陀  
仏の誓いを頼み信じて、ただ光のさ  
す方に身をまかせてゆけばいいので  
す。ちなみに「ちかい」の「かい」  
「さすにまかせて」の「さす」は、  
舟を漕ぐ道具の「櫂をさす」という  
掛詞にもなっています。

海辺の町大塩ならではの歌で、短  
い歌の中にも深〜い仏教の教えが  
しっかりと盛り込まれています。西  
国のご詠歌の最後にでも西光寺も仲  
間に入れてやって下さい。

# 日常に溶け込む仏教語

## 浄土宗西山勤行式から



浄土宗西山勤行式

### 相好そうごう

弥陀身色如金山  
 相好光明照十方  
 (略)  
 観音菩薩…  
 応現身光紫金色  
 相好威儀転無極  
 (三尊礼)

【意味】阿弥陀仏の身体は金色に輝く須弥山のようにです。そのお姿から放たれる光はすべての世界を照らしています。

観音菩薩の身体は紫金色に輝き、そのお姿や振る舞いは勝れていて、いいようがないくらいです。

※須弥山 古代インドの世界観で世界の中心にそびえる山。お寺の本堂でこの本尊をお祀りしている所を須弥壇だんというのはいくつかあります。

顔をほころばせ、満面の笑みをたたえるような時「相好を崩す」というように、相好は顔かたちの意味で普段は使います。

相好は元は、仏の身体に備わっている常人とは異なった優れた特徴のことをいいます。分かりやすい大きな特徴が「相」、分かりにくい小さな特徴が「好」で、合わせて相好です。「相」は三十二個あるといわれています。上のお経にも「阿弥陀仏の身体は金色に輝いている」とありますが、それも一つの相です。仏さまがゴールドなのはちゃんとお経にそう書かれてあるからなのです。そして小さな特徴「好」は八十もあるといわれます。

### 仏の特徴の一例



頭の頂の肉が盛り上がっている

眉間に光を放つ白い巻き毛(白毫)がある

隠れているが顔を覆う程の大きな舌がある、歯は白く、歯並びもよい

身体が金色に輝いている

足の裏が平坦で、輪状の紋様がある

青蓮華のように青い瞳

ふっくらと丸みを帯びた肩

手足の指が柔らかく長い、また手足の指の間に水かきがある

両手を広げた時の長さが身長と同じ

当寺内仏の阿弥陀仏

# お知らせ



宗祖法然上人立教開宗850年特設サイト

<https://honen850.jp/>

令和6年、浄土宗は850年を迎えます。浄土宗、法然上人をはじめ仏教に関わる様々な情報発信を行っています。私もコラム書いてます。



## 春のお彼岸法要

コロナの感染状況を鑑み、この度の春のお彼岸法要の一般のお参りは中止にさせていただきます（役員のみで勤めます）。

どうぞご理解の程宜しくお願い申し上げます。

## はなまつり

5月8日(日)はお釈迦様の誕生を祝うはなまつりです。当日は本堂前の参道に花御堂はなみどうを設置し、甘茶もご用意いたしますので、どうぞお参り下さい。



## ご逝去の報

中ノ丁	大谷絹子さん	83歳	令和3年11月9日寂
伊保	小川桂白さん	84歳	令和3年12月7日寂
大鳥	阿保義一さん	90歳	令和4年1月18日寂
大鳥	阿保照子さん	85歳	令和4年1月18日寂
東ノ丁	八若千代子さん	90歳	令和4年2月5日寂
西ノ丁	生嶋信男さん	77歳	令和4年2月13日寂
西ノ丁	小林和平さん	83歳	令和4年2月15日寂

## ご本尊をライトアップ!

先日お参りされた方が「どこのお寺もご本尊は暗くて見にくいですね」とぼそっと一言。直ちに改善しました。阿弥陀仏が暗闇から浮かび上がりました。これで皆様にもそのお姿をよく拝んでいただけます。



## 鐘楼の扉を修繕しました

鐘楼しょうろう（鐘撞堂かねつきどう）の入口の扉付近の木がシロアリ被害にあってしまいました。鐘楼全体に駆除剤を入れ、扉も新調しました。吊り戸にして敷居の段差をなくしました。



## 編集後記

最近庭先で鳥の動きが活発になってきた気がします。春は近いようです。

先日、スウェーデンで人が捨てたタバコの吸い殻をカラスに捨てる社会実験のニュースをやっていました。いよいよカラスに掃除をもらう時代がきたようです。カラスが吸い殻を専用のゴミ箱に入れるとご褒美にピーナッツがもらえるとという仕組み。人間はカラスに道をキレイにしてもらい、カラスも餌がもらえる、まさに一石二鳥。日頃ゴミを漁ったり、鳴くだけで不吉と言われ何かと煙たがられるカラスもこうなるとは益鳥になるのか。ほのぼのとすればよいのか、人間の勝手を嘆くべきなのか。そもそもポイ捨てしなさいいいのと思うのは野暮なのか。何かすっきりしない感じは残る…

善良なる我々はカラスより先にゴミを拾ってやりましょう。そして人知れず徳を積みましよう。

